

みんなと一緒に寝泊り、通学
合宿通学

6月5日～7日と6月19日～21日の2回にわたって、南条保健福祉センターで合宿通学が行われました。

これは、小学4年生の児童が2泊3日の合宿をしながら学校に通う取り組みで、集団で生活することや地域の方との交流を通して、自主性や協調性などを養い、たくましく生きる力を育むことを目的に教育委員会が開催しました。

児童は、親元を離れ集団で生活するという非日常的な経験を通し、親の大切さや自分たちで考え実行する大切さを実感し「家でもお手伝いしたい」と話していました。



幻想的な光を後世に
ホタル観賞会

自然環境意識の向上と地域の活性化を目的として、6月28日にホタル観賞会が今庄小学校体育館で開かれ、今庄小学校4年生の児童と保護者や一般参加者など約50人が参加しました。

福井県ホタルの会顧問の草桶秀夫さんより、ホタルの基礎知識や観賞方法などについての事前講演を聞いた後、午後8時30分頃に上新道区のホタル観賞地へ移動。多くのホタルが暗闇の中で光を発しながら飛び交う様子を観賞しました。参加者はホタルが生息できる素晴らしい環境を未来に残す大切さを感じながら、夜のひとときを楽しんでいました。

自分たちの力でまちにぎわいを
きとつけ今庄 宿の市

まちにぎわいを取り戻す活動の一つとして、6月22日に今庄宿プロジェクト協議会主催「きとつけ今庄 宿の市」が開催されました。公徳園の特設会場には、今庄の新鮮な野菜や特産品が並び、朝から押し寄せたたくさんの来場者で品切れ続出。周辺店舗での飲食や、昭和会館と清心閣で行われたクラフト体験も大盛況でした。

主催者は「これまでにないにぎわいを住民自身で作出したことは大きな成果。今回の成果や、商品、宣伝などの反省点を活かし、町全体が盛り上がるようなイベントを目指して、今後の継続的な開催を検討したい」と話していました。



日頃の練習の成果を披露
南条地区文化協議会発表会

6月29日、第36回南条地区文化協議会発表会が南条文化会館で開催され、同会員らによる日頃の練習成果が披露されました。

ロビーなどでは書道や墨彩画、俳句、写真のほか、今庄地区の手芸や河野地区の押し花などの作品が展示され、訪れた人の目を楽しませていました。

午後からは、ホールにおいて舞台発表が行われ、狂言や民謡、日本舞踊、大正琴、吟舞、津軽三味線などが披露され、観客は発表者の堂々とした振る舞いと風情ある演技に魅了されていました。

人権思想の普及高揚を目指して

退任人権擁護委員感謝状贈呈式および
委嘱状伝達式

7月4日、退任人権擁護委員法務大臣感謝状贈呈式および委嘱状伝達式が南越前町役場にて行われました。

贈呈式では、2期6年務められた赤澤健一さん（八飯）と小原一孝さん（小倉谷）に感謝状を贈呈。感謝状を受け取った2人からは「これからもさまざまな啓蒙活動に取り組みたい」「今後いろいろなところで人権に関わっていききたい」と挨拶がありました。

また、新任委員の前田壽美恵さん（北府）と大橋光順さん（大桐）に委嘱状が渡されました。式後には研修が行われ、人権擁護について理解を深め、今後の活動意欲を高めていました。



〈左から大橋さん、前田さん、小原さん、赤澤さん〉

泥より出でて泥に染まらず
誠蓮初出荷

南条連生産組合は、7月10日、関東市場へ花ハスの初出荷を行いました。今年の花ハスは、5月下旬からの晴れの日が続いたこともあって、例年以上のできとのこと。

早朝より同組合の組合員や家族が総出でハス田に入り、背丈ほどもある葉をかき分けながら出荷に適した花ハスを見極め、一本ずつ丁寧に刈り取りました。収穫した花ハスは各作業所に運ばれ、特大、大、中のサイズごとに20本ずつ束ねて箱入れし、関東市場へ新盆用として約2万5千本出荷されました。

8月上旬には、関西市場に向けておよそ10万本の出荷を予定しているそうです。



実体験を通して、大切なことを学習
だしじゃこを作り、自分たちで販売

7月10日、河野小学校の3、4年生が、新鮮なアジやイワシなどの稚魚で作った「だしじゃこ」を南条農産物直売所「四季菜」にて、販売しました。

児童は「一生懸命作っただしじゃこです」「とてもおいしいですよ」と呼びかけると、四季菜に訪れた人たちは元気な声とかわいい笑顔に引き寄せられ、次々と購入。だしじゃこはあつという間に完売しました。

児童は、生産から販売までを通して、事前準備、お客さんとのコミュニケーション、代金計算などを実体験し、意欲的に考えて行動する楽しさを学びました。



ふるさとづくり運動にまい進

あすの福井県を創る運動表彰受賞

あすの福井県を創る協会総会が開催され、南越前町では、南条生活学校と平野太さん（東大道）があすの福井県を創る運動表彰を受賞しました。功労者知事表彰（団体の部）を受けた南条生活学校は、26年間にわたり、資源リサイクル、節電などに取り組み、地域発展に貢献しており、生活で直面する課題をみんなの知恵と力で解決していくと日々取り組んでいます。

優良実践者会長表彰（個人の部）を受けた、平野さんは、地域の融和、活性化を目的に「ミニ新聞「だいでうスポッ」」を23年間にわたって執筆、発行しています。この新聞は、手書きの温かみのある紙面で多くの区民に愛されています。

